梅雨長太閤

上

215
2057
32

準貴

KEIOGIJUKU UNIVERSITY
2

東京帝國大學圖書之印

帝國圖書館藏

帝國圖書館藏

帝國圖書館藏

帝國圖書館藏

越中国大臣

きゝ給ひし我てうは源氏の帝はとゝき大臣
きんこうのどやてなりびきき長下一人おもう
ます。おろれはきんこうのふぜ代をたぐ為きは
おる。ぐてんいろぐ為きと大和の国初瀬
のてらふまふぎしてびぐこんのきせわ観音は
里をあうとあふぎ三十こ安のあもこをたしび
ドぶ我こうをうまおもきま今ふこじあわくん
おんの神ぐひのあかをやうらてかぐすく
はおをまう音神ふ。おろを男おみて出産あり

藪のすゑのまつかぜまぢかくなりぬれば
そぞろにそぞろゆりわらびのとなかばかぜ
うつくしきまひをうり。せ藪のくれはたらまめ。
十三まてうねうつりめ。ぢ位のかねをとり
まつぢせまてをねすくぶいぢんよぶうせ
ぢやうのひめをくに城むへとうせぢひぶうび
ちまうりつづきをれそをわづをうとをを
あとをうまもをじめくざていざるぢといざ

まくいハ。ハの国よあまよくぶりふををうられ祢と
聞くぶ。第一月日城うをぢふ伊勢の祢昭みく
市発あり。その作きに月とうむ。言葉れあうれ
あうぢん。月まをうみこあをなり。その作ぎふ
うを城うむ。作のあよはをうあるひうこの文
あびを三部夜まて。ぢれをしをぶ。その作ぎり
祢をうむ。ぶ雲の国城ぎこのあふ　ぢ部ろ
まて。おをしまれそのかりのかりまりしやれぶい
をうをぶるひうをのをうしやなり　かをれ
ぶんち城れををよをくををうはうををうるる

こんぜんぢのうちそ。仏とあらせ給ひけく
慈悲をけどり給ふるまをもあらだあき
ぜをも我てうとやそよつういまりをまきしく
はまうのあとるべきぜ。ぜんごづひうき
仏はおちのあとをなる。大まうだけ自至てん
りあり。ぜうけ。猶くのそうぞんめぐりして。
いうふをして。我てうをまうの国とるさんと
たくむふるまて。刹てたまうきかりき
此変乃ものぎゆ。むこくのむくまがやうき
しぞ。万ぞうのふるびどりかゆくれむくま

とりのう。まうさうとぐくまいぞぐくをと
るくをぞ。まは人がたねゆくはしれを
さりふるをとをせあへとこそやしけき

糸國小きあふゆきとり。ふせきたうひきれども
うまうがとまるれどくの矢い。ぬろ雲あれごと
もうてぞ方てんぞうちうけ。天地をうご
うせあいまだかるすあきあうあずて
うまる。中國さうてひきちうそく。我を我てうと
ゆい國いぞくさんあるんどうそちひさうとや
せたぞんぶいうちをたうきかう三れたうう
あまあり。一川ふたちんしうそろくてん
乃まうのをうての判えうり。二川ゆたあい
しどうとうあまてうあうのみうなり

三川ゆきたるぎやうきんとそびもれくふ
えびらのやまの大ぎやのおうまをとりー
まいきんなり　をこうるをトのてうかうみく
代くの法ようふ美國ふりきういおあつてわざ
むけた。神國さるよふるまたくぞうあくとまず
夏えます　今をあまてうを出神のいまぐ川
乃すえつきぐ伊勝へかうあいまりぞいー
どころの出くせんふうまたく。詰まをたく
りたべーとてちよしやのかうあいまんだれ
出神系あらせ給ひまりぞ中ふとりくをぞい

ーとこころの出くせんあぞーだけるぞ
きこきまりぞ。せ川りあらせ給中をあぐ
そぞよたくしてきぐふりこくちんたくあら
むくりぶむらぶ目ふりしてぞトのうんちち
たら面ぶこきこりしあ面ふしていこさひやう
ぢやうとりくぞ。ふりとたきせたむくりぶ
大ぞ。まやこさうぶきふまてうおきる川どくれ
矢ぶぞこきまーの弟たれる。神るのあーに立
ひきずいやさんそのうあぞ。このいこさを
のべられこりぞ。まきふよりくきういどもちら

城はうとせめいりなりさまざまもうまうろ
みうきひさぼふうわ海のさる成ゑ〜いそだ
あのうびがんふのいうさ波さやめようこを
むりりせ浴ふゑ〜れまのいうさのうねみは
ゑ大臣がちやくうむよゆり大臣をむくゑさ
なりは人はうむくるうばうそようんがう
まよくゆりくてうそんがうれちううをゆ
べきなりりさをうそ下向せばうろかひよ
ゆうを矢をうろゑきなりどそうそひ事あ
うりなんいそげくうちんうそかうへい

あがらせたまひけり

法ちゝさぶいぢんいはゆりぶいぢんを
めしてだうせよとのゆらがやうあり。ちん
だくとやぶんぎんみよを城めい成けまた。ちゝ日
をえゝひこやこいぐくと風雪を拾ちむてくよ
まうせてう〇の弓矢をを門べしとそかられ
上ををめしよせ一所をきよめかりあくさぐ
あ。ぜいしくをはゝてはくり立弓。弓のあぐ
さい八尺五寸。まりを六寸二ふん。矢はりを
三尺六寸。矢かすい。三百六十三。称中尺八月め
ろうぶゝを入。弓を矢をくろぶひりて引くい

うへを為ゝだと。人道のあづゝをさ一ゝ為の國
ふありあふゆゝとりゝをぶうぜんのはゝの
ゝそ一ゝを為ふとゝろいるぞふえゝふ
岩田いとうめん七年うのへさろ二月八日
りゝやこをゝつぶいぶんどのくはせいを
三十百ゝよりゝさゝるくそのかりはトのぶん
ひやうは。百万余ゝとぞやゝきろ　ゝやこを
ゝくを日い　ぢりゝのはゆへふ　ゆとゝり
あくまはのふるめゝをぐゝやをよぢんを
とり為ふ　ゝ為ふとうしやうのちんぎも成

そーめまりいそんぜねぎうへとうろひとめー
せいまいみそいのうへあげ　座しやら
そんのうちをぎんんでぐをふのりかすみ
のり一川を國家城海やらんあ。みい民まぜ
あもごせんね　我民まわうぐま　かくら
ふうげの　そふおとく　さ紀よ言くぞ海か
らくさそかくうんらのきふりてうくう物
をくあく吹者まげ法ぼーまぢんとうむくり
たあのーを和く今変いまげくひけやと
ては方そうとりを書くむくり國色ぞひきよ

者ぐさそくそをかをおぬ海ふふ。ふを目お変
和そーを者　ぶい者むどのいこのーそう
りんやさ者をりけ者肉ま者れせんが方
ぶいぎんがあのぐびの者ちやうあ紀ぐ
乃國目城をくをそうぞ言く海りらぐ者の
せんでなり。大長変いれ國ふを海むりのうき
りぢくひやさ者きれどもくふのまりれ
ぬる者ま者ふあせぐいかるふまぢとかうまて
ちをくーくちけまぢちををを紀清雲而
城ひさぐーていそぬ紀ぐくふぐり者援れ

あうかゝとそこでさるうゝ物よをとらんを
世話ゝゝこゝやとあけをぐやうせんぎきちらく
ちりむくりゝがたねをぼ人ときあろをぜめく
一人討ぬくぐゝいくさよめらくちちゝを
あるゝあげきそういとこさうのものあまた何
とち思ふくれけるんあゝ多のうちをさゝり
うゝ。先ゝうらいくへうちあくせ百六十
六あとせあ先ゝうゝへを大勝をそゝし。ちく
さいくをせあまびけをなむあく成せめん
夏ぽ乃まあのまゝ為をとせんぎゝて仕くへ

せいとぞこさきゝ考ろ大長為も若月をえゝひ
出いゝくとゝうゝくけ迄ぎんさうの大永百よ
そうそんぐゝあ〇い数ちゝんそのかうゝゝく
乃まうせん。かゝせゝみひ。そゝゝふるうすを
八方そうむくりいは方そうまてひゝひまろ
よゝ一ゝいまゝてぞひゝりまきろ。扨大長為此
出発私をゝ。かゝ後をかくかざまゝてゝを
為ふいゝゝふゝゝく六十余別のまい祢ゝら
ねがゝ。当升さうゝゝん。雲ふゝゝをまへ仕く。
ちうゝゝゝこゝをそうすまゝ　月ぬけをよ

だいばくりゅうの月宮殿大臣いたゞき庭私
ふあきれ者り。ぶ雲ぞうぐり成ぶ雲ぞ。ぶ雲ぞ
私ふとの海へとゝ。ぶ雲ひとゝすとの海ひく
をゝとゝとゞめゝまひきれさて子孫どもは
とも色みは。えのあいとときゝて。神うぜ
をぐゝふきまれど。海ろんまひをはそる
べゝぴゝの花へ成ひゝときい。神家こうう
ぐゝぴゝぷんら成せてあさせ海ひゝ時。神あ月せ
してむゝりきゝをうゝ海とれをひゝゝ重
ゝり

ひとくふぢんとろ。むくろどもてんれいろを
きりとりて。ニさう（ぎんぢ）非通のものなまえ（ふう）ぬれ
むくとさとりをる。ちくふふもてをうるみ
庫。おかさうひへ角くいぢ。ふせいぢ。うんと
ぢんぎして。ぢ方そうのみ孫どもかはりくれ
むくろ紅（くれない）家唐（たう）と月中乃ちかさうひ。ちくらぶ
はきふぢんをとろ。大臣夜の法度みひをを。ち
くろぶはきへを。おまを。うまををそれてちろ
ぢぢ。だぢひふをそれてこうををせぐみすよ
ちうををぐて。ぢく。三とせの美（くろ）をぞをくられ

きろ。むくろぶ大臣ぢまやうさう一阿（ぢ）よをくを見
いで天を見ぐかす大きみ吉みて。ままくぶいくさ
乃を立みぢきろをふ。ぢくをろみひふ。ぢろふ
らをとくげぢをまぢ。影ろとやてきるんあく
乃大臣。みひの色いさふかぢふろあぶ。あ紙
きいき紙ぢく。いろみぢ門をうまんきん。
きろと聞くぞみろろけぢ。ぢめをうすく
みりきろぶ沢光くよあ門く成る屋ぢを月
ぢを見こまろぢ。あろうぢう来れぐぐくまそ
一日二月みくたまをせぐ百月百来ぢみりに

きろ　さうをうたなけきゆこうとうもきろれ
ぬうひふるろぜまてゆこのそそすゑぼぶ
をちうさまひくぐきやうそなうけき
このきうだうろうあうされてさうものこ
くげとるうん夏うんうりるんとぞあげきろ
大臣をひ孫ん玉柱にあげめいまあう
でいいいのとさうくこのちうをあふぞぐきど
おげ孫されきろあうひざうあかぼひとびを
あとう　南無天照皇太神宮そのりう六十余
別乃大小の神祇ぼ　ひきうたうしてそうびぶへと

きせい祇ぼうさせうまひきれぐあうありかさ
やきせいのちうもんて伊勢の玉ねき
ぬくあうよ　きうをかぐうくまこうれ
まふくうぜをきしくてぬうひの夏こを
白山のゆきうちうやくこきをまばいしう
うぬうんうもうろこびのかをぞあげよ
きろ　大臣をいあうあるうぞうりぬうろうこび
きくさうぐいうさとやめんとそうこのひ
ぬろうさぜぶひ鉦大せいきむ夏くぐ四ふ引ねれ
あうぞとて　十八人を引をして　ひうりが

私あそがら きまつ。ぷやうさうくるすいあま
ぜえて。だうらうが。ものといきこけく。ぼてと
とだせけるぎをあげ。ぼたうてんさうきあち
うけ。天地とうごう。せめきまども。大長らう
ともはさんぎうく。むくりが私あそ四くられ
きんぷのあさえ。ふけうせこうくろうのれ
えてあなりてゆはもむすやちんぎやうくん
はんぎうこんでんいうてかくきこうそんせう
こうよあ。ぼうるをしやあちやあむしやあく
りのりがこうくりきの矢さえと聞くむ

くりが面をこを対けふいうう。ぬどうれちん
ぐんに。かんまん二月の文まがけるぎと成く
とびうる。ぼかくのむくるが首をこうの。観音強
あのいんよ。おぬぬきうなんとぷふりが
金あうそくぬくむくりが矢さえ城ふせげを
みくく一騎もまてをおハぎそこそ法人ちう
をぬちんのかんつせんをくぎを大長あい
はらんぎくいつのまうそねりせこくくろ
かのあゆくのけうをすきもくをれうへ正
えぎきあり。三百六十三まぢの矢城強るすく

るくあそびぜば。まやうさうさうきわくを
をいさうきりわどぶくをとぼる雲がまう
二人さいけとうまわぞのりうんたかむくを
ともあるひきうれくうけくうくへ入く
見すうをあり。に万そうよりうあうむをを
はかくうれて。月う一万そうよりうさの
みきたきよりうあしてを超清紙書せうをけ
を紀。地へすぐさうせ弱ひて。日かきいくさま
うわとて。パ万そうのふるうれうしろびし
あふ幸のぎりるー　大居夜いはまくはは

絵あうるばめでたうあき幸ども紙。ごの
ひぐのあぶぢんすせいきは紙はくさうせ弱ひ
めのとのあのふ紙めて場りせきうきいが
くあう湯やあうあぐるて者を屋すめんうの
は糊あり。あんの姫兄弟あ蒙うう紙場りなが
めうになきまふひうの小鍋きぐんういが
しまあきあり。みくさのの〇をばうのび屋う
ふあけ蒙せは方紀うたうう紙のべいうれく
とまううりせうせすいめんるうせ弱ふ
ぶいちうくせやうん。孫へうさうやく場き

うせ海ゐ兵衛日三日ぞ海ごろこ落ち

いかいどぜんさの獅りよそのぐうりをそそぐめきろをそうとれ爲ふれ
ちんがりきろいあ
ぼくしゆ丸ケ島城ふ海ゐうせまひ。うへこれ
ちとは産あり志ぐ剣あのそびを城ケくれ
むくりをせあゐろぐ落へ日本國をこの
さ海ながくふ海ゐうせ落ゐん幸れめぐ
れさよ。へゐくをうを孫ゐ。こるひ君れ
やうゆとや。兄のぐのふぐ兄を学。さまこそ
とよその事よ。ここさやうよとこ落ゐく

ゐきて先ずいまとのまくあそくらそそむる
こそは惜きいさあの君をうらやぶうるく
して出あく我が幼せんとやをとうとぶも我
きておくそくつこいなのはくくやいばきく
乃出はんとあめ屋まうまり人と成し
我おぞうしいめへのはんをきもれやまれ
らがふうけやるべ天命いそのづ百屋き
出志あんき屋くいだ門梅ばまりきくくりを
梅をるんぢいきくと一ひよれぢあるの
幸りきやくなぐまま一人がとぶくうべ

ままそようこれいあきぞそよまどのとあみて
死るんとそかくるみのぢるかを我うけてとん
でからむくをそくうぶあきとてぎふと
きやうかを思を治りぐだ人をまようけあく
ドきすとをいきるぐぐ氏治ようをきやて
ゆくなばそくろいあ月うのこ屋まて十
目ばくりも法いのちの物かるぐ人治ようぎき
あかの屋門ふぐをとくあは出をくろくを
やきまくくものうるぢばさやうに法ん
とていくりやきくをばぎんういうこ屋よ

をそをぬぎ。そこ乃みづ。ひよあがりみかくさのぐん
ひやうせとを付くゝやまきりいぐさりーや君い
むくりが大きやうまやうまやうさうがもる門矢をは
きうせさるが乃ひさあくせようけとあさせ給ひ
ていと。うすをまて法師ざうともさり
ともとうのこ城うけしきるーしをるくぼ。ぬふ
むのくくるくせうまひくいは。ちがいをくぐ
よあげは靈不乃は月うけうくいあそも
法祢をいてひうは産私あくさなのひざいさ
りなぐ海底ふ志があやていさそをぬき

をそあくさまあひおせよとげぢすまは
みくさ乃ぐんびやうたいひとよゆあれんち
して我をくらずとをいぐす一そう二そう
乃みひるくをそうしづて私救い八方そう
一なよかをあげ報をとれを　天地を彩ぐく
をうなり　あのこふとふ大臣い美うう
さ海さうせ給ひてくまうあうとめきる生て法
西事やをものをなしあはいふとおぼめ
りんでとあきさうせ給ひくあうを蛮あり
をれくひと一人もなりまりぞうう私を

足ぶみをあげくこそをしいぐさせそい
ぐつふがあろがりり城ばうう。だんぐ月海
こそあるばがりりをすうとも。るぐやいトれ
ぐんびやうら。我をばばまく遊うれぞやのの
みひあちへとのの海へどもこるみ孫どもれ
をくうをきくはけの者をるーせめく男ひ
乃あまりあやういしやうふ亀ひだ月くいき
城ちりふをようせ為へど。私いうきまれ相
なまばうぜふまうせてこやうりまりちうう
をようる大臣を　うりうーー為ふ又ぬどり

そのさだめ城見をとりておきまてあもせ
給ひ名りざう里そく里がいのへうじんを
うつよをそられしをあまに似たりとゆせ
どもせめきをいふさ里ぶくうりまぐさむ
かくをありそこりまきまづうのこじ海まて業
末を文ふなりきりさうちん廣と城うちく
月のおぐきゆをあ。あしうの月を海より里弟
みタ日をうをよいり。霧の月をうをうをや。業
ふけてゆをなをのをとゆをまの夜ど城をの
ゆくやうりふまうをくまわをまきうまれゆを

こくをふをのとをいぶ。ぶをうりあづうをひう
かをめぶぐさりちどをうりく時を行又とをく
こひしをそいどぐあけ遊く業もまぐく。當行月
うげをとをかりきをまはをのいのうをくされ
業ふ。屋どをどきを屋うあけ遊れなの里ぞはを
ていのうをつざう義日うざとをくらるく
いをいをくをなうしくよゆをうりをうりう
きり　ゆうあひざ屋のふをあうざいをぶく
りをうをへあ城うをせうろこびのをてうと
風ゆうをはのあうにゆ屋をゆ慶ゆへあづう

ゑぼしをそ
ばたてさせ給ひ。はおをそ
とぎすまさせ給ふ。さてこそ
ふ兄弟うち連れまゐ出給ひ。あるよさ海さして乗り
みぶいさこゝろゆらんじて。あまたの門をの
開さゝへのあんるいやまこゝろ乗り給ふんと。
人してきこゝめすへき事をそくおほ
め。自分みん海ちくはおろくめぶ給ふの
きやうぶいやなふとそ君いをそくゐこさせ
給へぞ。兄弟ゑぶ給ふ。事やさびおきひて
いふとゝぶひさせ給へ。そのときに兄弟海を

あげまていとゝゑくやさんとゝ事ゝ海給門ら
やさんいゝこゝめさるまでいこゝりや君い
むくりぶ大ゑやうぶゝやうとやをのとを
なゝべくませ給ひ。二人ぶゝういていう
ゑべませ給ひくそのちみを見こさせ給ふ
ぶそのありひのこ海ふゝていこさふゝら
こゝゑるこゝをゝゑ。さんゝるぶゝぶかゝみ田
をは給くはとはそせるぶゝとかのの弓張剣を
そ人て乗ゝせあぶゝゝ　みぶいあのゝ出給ん
ぶゝくめ迷ゝあゝぶのゝ事ぶゝをうゝゝこと

くませふ屋りんかいの[illegible]ふ[illegible]うえんを
とゞめて海ふかいり給ふべきぞやおなみうく
乃事城中をのかるゝあそまこのりの兄弟城
をくなきへこゝろをうしめ[illegible]とたゞやとら
男へとをたゝるをぬゝあうのは事なまぐ
こゝろひとつにまくぐーはく　きんちうふうく
りり給ひうえんのをめーあいめいぐき
はうせ給ひこゝろをうてあぐきまひきまぐ
はは海へなりぬの給うとうこゝろ。　なるまんと
なきをまぐそのたなりとるみちまでちかる

はりふわうをきるう

そなたの姫君を参らせよと。さるひの
き御と風ゆをてをのとんぎやうゆめきこ
ゆるうあまうまきろ殿きとよをさくめさ
ゆひきりのぎりとはもせども。ぐいぎんどの
はきてうるきたのひざををいをのぎと
ぢ文ぎ大臣はぎ治臺ぎとーうけうりひうさ
ふきざうりのれるふかをく殿ぎ事いうまぎ
かえぐのるれふぜいぎはまきいのちかうへ
ちやとぎぎき治へどうれりは　うちりぬ
せんぐぎ大臣ぎきてうをるぐば日ぎ西

をと思ひはまどとをうれぬうへちうる
まるけぎやう法をるふ殿きぐ門ふ兄弟
ぎはくのの西目をとうするぎいそぎゆう
見ぐぐりぐけうりやぎきぐいもむがけう
やう移んぎろかへとものせんぐりの姫
殿くぎんう相臺乃せんじうる日ぎ國をく
思ひてくを君をはりをやうきめづし
かうわはくへとてみくそぐりきうとう
やの殿門ふみちくあんぐきうへさをあき
我君乃治臺西い天下一の美人みて御ませ

たゞぜ乃れたりのさまばさをまゝせくゞんん
まゝみゝうけひさ給りくゝ有るゑ〻ぞひ紀給ふ
をのゝゝらばゝ〻ばけゝばけゝゝゝさんと。ゝ海ばさ給ん
あゝよあゝゝゝあゝゝゝ

房ごとにうつる色幸一枝すう